

# 二年・三年保育

## 五歳児の二学期に臨んで



永 山 曉 美

### (一) 二学期になって

七月号で、五歳児の一学期について述べましたが、ここに二学期の問題について考えてみたいと思います。

五歳児にとって、二学期の四ヶ月は、どの子どもも心身ともにたくましく成長し、二年または三年にわたる幼稚園生活の中で、最も充実した活動の時期であると思います。従って、この学期には、特に戸外活動を盛んに行なって、体力を増進し、それにとめない強い精神力もきたえていかなければならないと思います。

楽しい夏休みが終って、皆の元気な顔が揃うと、日焼けした肌、いきいきとお互いの経験を話し合う姿などに、ひとりひとりがあるような夏休みを過ぎてきたかがわかるような気がします。一日も早く、家の人に記入してもらった夏休みの生活表に目を通して、その間の子どもたちの生活を把握し、二学期の活動に効果的に結びつけるようにくふうしたいと思います。一方、生活面では四十日余り団体の行動から離れ、それぞれの家庭にあつて、よくも悪くも家庭の影響を強くうけていますから、早く規則正しい生活に戻し、個人差を調整し、級全体の歩調を整えることが必要になってきます。また、家庭の事情によって、帰省、旅行などで豊かな経

験をした子どもと、あまり外出する機会に恵まれなかった子どもでは、社会活動の経験が、かなり大きくひらいています。

そこで、各自の経験や成果を皆の前で発表する機会をたびたび設けて、種々な経験を皆が分け合うようにしたいと思います。また、夏休みの間に十分体をきたえた子どもと、そうでない子どもとは、体力の差が大きくなっていますから、九月はじめには、発育測定、健康診断などをして、七月末のデータと比較し、問題のあるときは家庭と連絡をとり、なるべく早く回復するような手段をとらなければなりません。このような夏休みの整理は、おそくも二期期はじめての一週間のうちに完了したいものです。これが終わると本格的な二期期の開幕となります。

## (二) 二期期の教育計画を實踐するに当たって

五歳児の教育計画の全体の骨組みについては、すでに七月号に述べましたので、ここでは二期期特有の心構えについて考えてみたいと思います。

### (1) 豊かな経験をさせる

まず第一に健康な体を作るために、思う存分戶外活動をさせたかと思ひます。二期期は都合のよいことに、自然の移り変わりの

変化が大きく、暑い夏の名残りから、紅葉のさわやかな秋を経て、寒くきびしい冬への移行と、新しい経験の好きな幼児たちの興味や関心をひくものばかりが待っています。幼児たちは、この自然の中で生活する間に、動物や植物、自然現象の実態を、遊びの中に経験し、把握していきます。

こうして、環境の中で生活しているうちに、身体の動きも大きく活発になり、それに伴って活動範囲、経験の内容もどんどん広がっていきます。この活動の中で、自分で考え、行動し、発展させる力を養うとともに、友だちとも協力して、自分の力を二倍にも三倍にもいかすように指導していきたいものです。

また二期期には、集団的な行事が多く、同じ目的に向かって協力し、築いていく機会が数多くひかえていますので、社会性を身につけるよい時期となっています。

### (2) 五歳児後期のまとめ

二期期の五歳児にとつて、一つの大きな問題は、小学校進学をあと半年にひかえ、幼稚園生活の仕上げをし、進学をむかえる心と体の準備をさせることではないかと思ひます。二期期のカリキュラムの中にも、この問題に重点がおかれてきています。

ここで注意をしなければならないのは、生活年齢の問題、即

ち、早生まれとお生まれの子どもの間にある個人差ということ  
です。一方では、進学に必要なレベルまで引上げるといふ目標が  
あげられています。他方ではこの個人差を指導者は常に念頭に  
おいて、適切に進めていくことが何より大切なことだと思いま  
す。劣等感をもったり、意欲をなくしたりすることのないよう  
に、その子どもが発達に応じていっしょうけんめいやってけれ  
ば、評価し、励ますということをお忘れはならないと思いま  
す。

#### (4) 五歳児らしい態度を身につける

進学への心の準備として、まず五歳児なりに自立した態度を身  
につける必要があります。これは入園以来つちかかってきたいろ  
ろの日常のよい生活習慣を確固としたものにし、さらに集団の中  
で協調していく社会性を築きあげていくことであると思いま  
す。

また、考えたり、行動したりするに当たっては、創意と意欲と  
根気をもって最後までやり遂げる態度、疑問や力の及ばないこと  
ろは、調べたり質問をし、協力を求めたりして解決しようとする  
積極的な態度を伸ばしていきたいと思えます。

それから、規律よく、一定の時間内に仕事をやり遂げるとい  
うことも考慮に入れていかなければなりません。興味のおもむく時  
には、全力をあげて時間を忘れて取り組むということも大切なこと  
ですが、小学校の授業の態勢も考慮し、時には、要領よくまとめ

て、次へ転換するというような経験も織りませていくようにした  
いと思えます。

これらの態度を身につけるには、日常の行動における細々とし  
た指導の積重ねによらなければなりません。

#### (5) 知識の整理

次に、知識の面で五歳児後期に必要な多くのことがらを整理し  
ていかなければなりません。

たとえば、前後左右の観念、十までの、ものに即した数の認識  
の確立、使用しているクレヨンや色紙の正確な色名を覚える、も  
のの形や量を比較するなど、今までにつちかかってきたものが、よ  
く身についているかどうかを改めて検討する必要があります。

また、自分の名前を正しく書く、月日、曜日、時間の観念をも  
つ、鉛筆の正しい使い方などを、各人が身につけるように、徐々  
に指導もしていきたいものです。

ここで問題になる点は、ひらがなの正しい筆順を覚えるとい  
うことです。幼稚園で、五歳児のこの時期でなければできない活動  
を十分にさせ、生活年齢による個人差を考慮すると、限られた保  
育時間内にこの問題を解決することはむずかしいので、たびたび  
家庭に連絡をとり、家庭内において十分な協力をうけるようにし  
たいと思えます。

この時期に知能テストを行ないませんが、コンディショニングや、経験の有無に大きく左右される五歳児においては、テストの数値は参考程度にし、問題のある子どもを発見し、今後の指導の手がかりと考えたいと思います。また、テストの結果よりも、テストをうける態度を見のがさないことが大切であると思います。気が小さくて問題の意味を理解できなかった場合、集中力が足りなくて最後までやり遂げられなかった場合、落ち着きがなくてとり落しの多い場合、仕事がのろくて時間内にできなかった場合など、どうしてふだんの能力を出し切らなかったかを検討して、個人的な今後の指導に役立てていきたいと思えます。

#### (ii) 運動能力の確認

体育の面についても、運動能力の級全体の足なみを考慮して指導をしていかなければなりません。

正しい姿勢を保つ、歩く、走る、跳ぶなどの基本動作から、固定遊具（低鉄棒・太鼓橋・ジャングルジム・雲梯・棒登りなど）を使いこなすこと、平均台、飛び箱などを個人の力に応じて経験するように配慮します。また、まりつき、縄とびなど、リズム感覚を要する運動、球を投げたり受け取ったり、障害物よけ遊び、でんぐり返し、手足の複合体操など、協応動作や、体全体の柔軟性、敏捷性を要する運動などもとり入れ、これらをゲームなどで

楽しく興味をもって練習できるようにくふうしたいと思えます。近頃の都会の子どもは、危険な交通事情などから、家庭へ帰ってから自由な戸外あそびが少なく、通園にもスクールバスなどを利用し、歩くという機会が少なくなっていますので、体力、耐久力も劣っていると思います。そこで幼稚園ではつとめて、歩いたり、走ったりする訓練をするように心掛ける必要があると思えます。

知能テストと同じ立場から、運動能力テストを行ないません。このテストは実施に際して五、六名以上の人手を要しますので、負担が重いのですが、指導上参考になるデータが得られます。この結果、肩越しに球を投げることや、懸垂力、片足とびなどで、経験の不足を発見することもあります。このテストも得点は問題にすることはあまり意味がなく、指導の手がかりに利用するとい我想います。運動能力テストは、皆の目にふれることが多いので、身体の劣っている子ども、運動の得意でない子ども、内気な子どもなどは、その能力を出しきれない場合があることを考慮に入れて、ひとりひとりを励まして力一ぱいやらせることが大切なことだと思えます。

### (三) 二学期の展開

二期には、幼稚園の主な行事でもあり、子どもたちが喜んで全力をあげて参加する行事が集中しています。そして、その一つ一つの行事が終わるごとに、どの五歳児も大きく成長して、心身の力が加わっていくのが、よくわかります。

### 〔九月〕

#### （梨もぎ）

多摩川べりに沿って軒なみの梨園は、八月末になるとにわかには活気づき、お客をよぶ色とりどりの旗がはためいています。夏休みの話合いの中にも、ぶどう狩りや梨狩りの話が出ますし、秋の実のりを自分の手の中に入れることは誰にとっても楽しいことでしょう。五歳児の級は、保育時間中にスクールバスで毎年契約をして馴染みになっている梨園に出かけます。梨園では、管理のおじさんから梨の育て方、種類、もぎ方などについて説明をきいて後、めいめいがあれこれと覆い袋のかかった梨を物色します。今きいた注意を守って、好きな梨を二個ずつとり、家を持って帰りますが、覆いの紙袋をとってみると、一番大きいのをよったつもりなのに予想外に小さかったりしてがっかりすることもあります。友だちのものとくらべ合ったりして、とても楽しそうです。また、背のとどかない友だちを抱いてとらせてあげているほほえ

ましい姿も見うけられます。一方、早く梨をとり終わってかばんの中にしまいこみ、虫とりに余念のない男児もあります。幹にたくさんみつけられる蟬がらを集めたり、落葉のかけのこおろぎを掴まえたり、この方面の収獲も魅力があるようです。この梨もぎの経験のあとで絵を描いてみると、梨の枝が下方からわかれて曲りくねっているようす、格子に組まれた棚のようすなどがよく撮えられており、五歳児の経験による成長ぶりに驚かされます。

#### （運動会）

二期が始まり、第一番目の目標は、附属小学校と合同で行なわれる運動会です。九月最後の日曜日に行なわれますので、夏休み気分がおさまる頃から、去年の運動会のことを話し合い、期待を高めるような環境作りをしておきますと、早速自由遊びに反映し、かけっこ、リレー、綱引きなど仲間を集めてやり始めます。

運動会には、五歳児だけは小学生に混って開会式から参加するので、整列、ラジオ体操などを敏捷に、規律正しくするという経験から始められます。やがて、競技や遊戯の練習が始まると、種の団体行動が多くなり、九月二十日までの短縮保育中はどうしても自由遊びの時間が少なくなってしまうがちなので、十分注意しているのですが、時々、「先生、遊ぶ時間が足りないよ」と抗議

されることもあります。しかし五歳児になると、運動会に参加するのだという意識があるので、二、三人の例外を除いては皆、いっしょうけんめいについてきてくれます。こうした努力の積重ねによって、運動会当日には、自信をもって力一ぱい活動し、満足感を味わうことができるのだと思います。

運動会が終わり緊張の山が過ぎてはっとしてみると、いつの間にかひとりひとりに五歳児らしい頼もしさが身につき、また級全体としても力強いまとまりの力を感じられるようになっていきます。この力がこの後に控えているいろいろな活動の礎となつて、五歳児が大きく成長する一里塚になっているのだと思います。

## 〔十月〕

### （遠足）

一学期の遠足で、五歳児は付添なしで参加し、自分で責任をもって処理するという経験をしていますので、秋の遠足では、思う存分自然の中でかきまわったり、転がったり、うまどびをしたりできる場所を選んでいきます。また、落葉拾いをしたり、木の実を拾ったり、虫とりなどでもできる場所がよいと思います。

現地を視察した先生からいろいろと話をきき、自分たちの経験にも照し合わせて、遠足地での自分たちの活動を予め予測して、

籠を作ったり、ビニール袋などを用意します。また各級でふだん使っている遊具（たとえば、ボール、縄、パドミントン、野球やペーゴルフの道具など）も一まとめにして、持っていけるように準備します。教師としては、あまり暑かったり、疲れたりした時のために、紙芝居や、ゲームなどの準備もしておきます。

運動会の経験で団体行動はスムーズにできるようになりましたが、遠足地では集団の一員として皆で楽しむことや、公衆道徳を實踐することをしっかり身につけておきたいと思います。そしてけがや事故をおこさないように各自が自覚し、楽しい思い出の一つとしたいものです。

### （落葉、木の实拾いの園外保育）

#### （稲刈りの田圃見学）

私どもの幼稚園は、丘陵や田圃が近くに散在し、四季の移り変わりを楽しむことができます。しかし、よく注意をして見ないと、秋の自然はどんどんかけ足で過ぎていってしまいます。なだらかに続いた丘を色どる黄葉をみて見当をつけ、鎮守のお社の境内にどんぐり拾いに行ったり、高い石段のあるお寺の大銀杏の葉を拾いに行ったりするのに、ちょうどよい頃合いを見はからって出かけることもなかなか骨が折れます。十年ほど前には、足の訓練も

かねて三十分位の距離ならば二列に並んで歩いて行ったものです  
が、現在では道路を歩くことは危険なのでスクールバスを利用し  
なければなりません。現地についてからは、子どもたちは水を得  
た魚のように、あちらこちらをとびまわって、自分で拾った収穫  
物を実感をこめて観察することができます。どんぐりには丸いも  
のや、細長いものや、平たいものがあることを発見したり、お互  
いに何個拾ったかを数え合ったりしています。また松ぼっくりの  
傘の間から出てきた種子が風になつてとぶのを見たりして、それ  
らのものを幼稚園に帰ってからいろいろな遊びや製作の材料に  
しています。また、銀杏の落葉が三十センチ以上も積重なった凹  
地では、「葉っぱのお風呂みたいだね」といって、その上でとびは  
ねたり、また、赤ちゃん葉っぱからお父さん葉っぱまで、大きなの  
順に丹念に揃えるのに苦心をしているグループもあります。ある  
子どもはひらひらと落ちる葉をつくづく眺めて、「先生、あの葉  
っぱもこの葉っぱも浮いて降りてくるようだね」と詩情に浸って  
いました。帰りには皆、手に持ちきれないほどの銀杏の葉をおみ  
やげに持って帰り、またいろいろな活動の材料になっています。

六月の田植時と、十月末の稲刈りの時期には、農業をしている  
卒業生の父兄に、きまって知らせていただき、田圃のようすを見  
学にいきます。田植時には、細いしなやかな緑の苗が涼しげに植

えられていくのを見せていただいて、畦道や小川で蛙やえびがに  
とりをして遊んだ田圃が、秋にきてみると、黄金色の実を鈴なり  
につけて一斉に頭を垂れているので感嘆の声があがります。農道  
をあるいて稲を鎌で刈り取るようすをみせていただいたり、刈つ  
た稲が稲かけにずらりと干されているようすを見たり、脱穀機か  
らもみながらかぶった米粒が出てくる収穫のようすを見たりしま  
す。しばらくするとどこかで「蛙がいなくなつたよ」という声か  
あがったり、たまに茶色のぼつたがとび上がるのを争って追いか  
けたりいろいろな草の実を摘んだり、いのこずちなどをセーター  
の胸につけてアクセサリーにしたりして、子どもたちはこのよう  
な副産物に夢中になってしまいます。しかし、実際に働いている  
農家の人を身近に見ることは、子どもたちの心に大切なものを残  
してくれることと思います。

## 〔十一月〕

### （展覧会）

今までにしてきたいろいろな経験をその都度いろいろな方法で  
表現してきたものを整理してみますと、五歳児の思考の傾向や理  
解力、表現力がよく現われているように思います。また、個人  
や、グループの自由な発想による表現物も、皆に見せていっしょに

楽しんでみたいと思うものがたくさんあります。そこでそれらを並べて幼稚園中のお友だちや、家の方たちもお招きして、展覧会をしましょうという話し合いを始めます。今までに経験した展覧会のことを参考にして抱負を話し合いますと、毎日誰かが家庭からいろいろの材料を抱えて登園するようになり、級中が次第に製作の意欲につつまれてきます。そこで教師は、製作に必要なであろうと思う材料や、補助材料を豊富に整えることが大切な仕事になってきます。百貨店や、教材を扱う店に行つては、研究をしたり、買い求めて実験を試みたりして、子どもたちの相談相手になって展覧会のもり上げりに全力を注ぎます。

五歳児になると、級で相談をして一つのテーマをきめ、それに向かつて全員が協力するということも、興味や意欲を湧かせる原動力となります。たとえば、この頃に出航する「ふじ」をテーマとする南極のようす、宇宙や月旅行にかける興味や期待、高層ビルや高速道路や立体交差道路への関心、その他動物園、遊園地、秋の自然、童話の国など、級中の力を結集して、くふうや努力を積重ねていくと、驚くような力強い立派な製作ができてきます。こうして半月から一月かかって飾りつけまでででき上がった展覧会は、どの室も子どもたちの持つ力と、生活の活気にあふれていて、展覧会を見に来た人々に、楽しさと感銘を与えてくれます。

また自分たちの製作を、得意気な家の人に説明する姿が、会場のあちこちで見られ、ほほえましい光景です。

## 〔十二月〕

### （クリスマス会）

宗教的な意味ではなく、子どもたちに楽しい夢を与えてくれるサンタクロースの童話を中心に、年の暮のしめくくりをかねて、クリスマス会をしています。幼稚園全体で一学期の終わり頃にしたような会をもったり、ある年は各級でそれぞれのアイデアのクリスマス会を計画します。予め百元程度の贈物を家庭で用意していただいて、きれいな紙やリボンで飾ったものを、室の一郭にためておきます。当日はゲームに織りこんだり、くじ引きにしたりいろいろな方法で、この贈物の交換をします。各級で会をする時など、五歳児は毎月のお誕生会で、このような会をもつことが上手になっていますので、とび入りの芸が出たり、サンタクロースが現われたり、年の終わりを楽しく過しています。

こうして、重なったり、まじったり、一人であつたり、おおぜいの中でいろいろの経験をして、力強くなつた五歳児は、淡い小学校進学の希望をもって新しい年を迎えます。（洗足学園幼稚園）